

デザインコンテスト 最優秀賞受賞作品

作品名

ばらだけじやない福山



デザイン まつき ゆきこ
松木 由紀子 さん

企画意図

ばらのまち福山には、他にもいいものがあるいろいろあります。それらのファンになつて下さる方が増えると嬉しいなあと思ひデザインしました。

イラスト説明

ばら：1945年8月8日の福山大空襲の惨禍を悼み、荒廃する街を愛した福山市民有志が、1956年に福山市御門町（現在の花園町）の空き地にバラの苗約1000本を植え、1956年5月に福山ばら会主催によってバラ展示会を開催したことが福山ばら祭の起源である。その後、当時の市長徳永豊の賛同により、1957年に行政が都市公園としてのばら公園の整備に着手した。1968年には、ばら公園が美しい町づくり全国コンクール最優秀賞を受賞し、第1回福山ばら祭が開催された。1985年4月、福山市の市の花にばらが制定された。

鯛網：江戸時代初期、福山城主・水野勝成の命を受け、鞆の浦の沖合いの海上交通整理役と走島の開発を担っていた走島の庄屋、村上太郎兵衛と鞆の当納屋忠兵衛の共同で、1632年（寛永9年）に考案された。産卵場所を求めて瀬戸内海に入る鯛を「しほり鯛漁」により六隻の船団で追い込む伝統の漁法。毎年5月頃（要予約）、住時の姿をそのまま今に伝える。観光鯛網が行われる。

常夜燈（じょうやとう）：1859年（安政6年）常夜燈が建立。夜道の安全のため、設置されている常夜燈は、現在で言う街灯の役目を果たしており街道の道しるべとして設置された。現在は電球を用い火を燈しているが昔はろうそくを使用していた。鞆の浦は、昔の瀬戸内海航路の重要な拠点であり、静かな瀬戸内海も場所によっては潮流が速く動力のなかつた時代では潮の干満を利用して紀州や九州へ向かう船がここで潮待ちのために停泊した。

丸：1854年に薩摩藩の島津斉彬が建造させた日本最初の西洋型帆走船。土佐海援隊隊長、坂本龍馬が運用したことで知られるが最初の航海で瀬戸内海、備讃瀬戸の六島（現在の岡山県笠岡市）で紀州藩の明光丸（887トン）と衝突し近くの鞆港（現在の広島県福山市）に曳航しようとしたが、浸水のため宇治島沖で沈没した。

福山城：元和8年（1622年）に完成。新規の築城としては近世城郭で最も新しい城で備後福山藩の藩庁かつ藩主の居城であった。現存する建造物としては伏見櫓と筋鉄御門があり、このうち伏見櫓は福山城の築城時に伏見城から移築されたもので現存の櫓では最古の建築である。天守は昭和20年（1945年）まで残されていたが福山大空襲により焼失している。現在の建物は昭和41年（1966年）に月見櫓御湯殿と共に復興されたものである。

花火：市をあげて行う夏祭りは、毎年8月13日から15日までの3日間開催され、最終日の8月15日に花火大会がフィナーレを飾る。日本の伝統花火や珍しい仕掛け花火が夏の夜空を彩る。13日は江戸時代から今日まで受け継がれ、広島県無形民俗文化財に指定されている「二上りおどり」を市民の盆踊りとして市内中心部で開催。13日・14日は、6月から続く毎週土曜日の夜店出店の最終日として「さよなら夜店」を開催する。

明王院（みょうおういん）：福山市草戸町にある真言宗大覚寺派の仏教寺院。芦田川に面した愛宕山の麓にあり草戸稲荷神社が隣接。本堂は1321年（元応3年）・五重塔は1348年（貞和4年）に建立され、共に国宝に指定されている。かつては常福寺（807年（大同2年）に空海（弘法大師）によって創建）といわれ、中世には草戸千軒町が、門前町として栄えていたところとして有名である。

下駄：かつて日本一の生産高を誇った松永下駄は、実は明治10年代、塩田に潮を運ぶ船の帰路の入り江に着目し、下駄屋の主・人丸山茂助が、塩を連ぶ船の帰路の入り江に着目し、下駄屋から始まった。この片荷に山陰の雑木アブラギリを乗せて格安に仕入れ、入り江に筏に組んで貯木し、入用な分だけ製材して桐下駄に替えたのである。

備後餅（びんごがすり）：1853年に富田久三朗が考案。糸染めの前に図案に従って部分的に糸を括り、わざと染まらない部分を作り、それを織る段階で合わせて模様にする技法。日本三大餅のひとつ。

くわい：日本へは平安初期に中国から伝来したという説。16世紀に朝鮮半島より伝わったという説がある。福山市が全国生産量の80%を誇る。くわいは元来『お芽出たい』食材としておせち料理には欠かせない。期間限定品と銘打って、くわい焼酎が売られている。

福山琴：全国生産量の70%を占め、楽器として初めて伝統的工芸品に指示された日本随一の琴ブランド。江戸時代初期、福山城が築かれた頃、福山琴が誕生。江戸の城下町では、芸事が盛んで、福山でも歴代藩主の奨励もあって歌謡、音曲が盛んに行われた。幕末から明治にかけては、秀れた琴の演奏家が生まれ、こうした背景から福山では琴の需要が多く、早くから琴作りが行われていた。

